

A-31 Nivolumab により treatment free survival が得られた転移性腎細胞癌の1例

堀 克^{ほり かつひと}仁, 大豆本 圭, 角陸 文哉, 佐々木雄太郎, 富田諒太郎, 上野 恵輝, 津田 恵, 楠原 義人, 布川 朋也, 山本 恭代, 山口 邦久, 高橋 正幸, 金山 博臣

徳島大学大学院医歯薬学研究部泌尿器科学分野

【緒言】 転移性腎細胞癌に対する薬物療法は近年、血管新生阻害薬や免疫チェックポイント阻害薬が主軸となっている。特に免疫チェックポイント阻害薬による薬物治療は良好な治療効果だけでなく Treatment Free が得られる症例が報告されている。今回、当院で経験した症例について報告する。

【症例】 67歳女性。20XX年9月右腎細胞癌に対して腹腔鏡下右腎摘除術(CCRCC pT1bN0M0)。20XX+5年3月に腓尾部腫瘍出現し消化器外科で腓尾部切除術施行され CCRCC の転移と診断された。20XX+5年12月 CT 検査で多発リンパ節転移(左鎖骨上窩、傍大動脈周囲、残腓周囲)を認め、20XX+6年1月に転移性腎細胞癌に対する1次治療として Sunitinib 開始となった。食欲不振強く 20XX+6年5月に Axitinib へ変更したが、20XX+6年11月に左鎖骨上窩リンパ節が急激に増大し Nivolumab に変更した。3回目の投与後に eGFR 50 前後から eGFR 20-24 まで腎低下(Grade 3)を認め、以後 Nivolumab 中止となった。一方で治療効果は多発リンパ節転移は著明に縮小し CR を得た。20XX+9年4月時点で無治療で CR 維持している。

【考察】 Nivolumab により Treatment Free が得られた1例を経験した。文献加え報告する。